

『ずっと暮らしたいまちを考える 豊田市長との意見交換会』について

－中京大学開催－

1 趣旨

豊田市内に立地する大学及び高等専門学校に通う学生と豊田市長の意見交換を通じて、若者目線の地域の魅力やまちづくりのアイデアなどの意見を聞き、次期総合計画の策定に活用していく。

2 実施概要

■開催日時

令和5年9月20日(水) 午前10時～11時30分

■参加者

中京大学豊田キャンパスに通う学生37名

(スポーツ科学部、現代社会学部、工学部：2～4年生、修士1年生)

■テーマ

- ① 「つながり」についてどう思う？—まちづくりでやりたいこと・やれること—
- ② どんなまちに住みたい？—住環境について—
- ③ どんなライフプラン・働き方が理想？—将来的な暮らし方や働き方について—

3 主な意見 ※括弧は、主な意見を内容ごとにまとめたものです。

(つながり)

- ・自分たちの強みをいかして、子どもの向けのスポーツフェスタなど、スポーツの機会をとおした地域とのつながりの創出などができると思う。
- ・都市と山村のつながりは薄いと感じる。公共交通機関の話もあるが、気軽に行き来できる環境があるとよい。
- ・まちなかでも移動手段は重要。最終電車も早く、タクシーもあまり走っていない。
- ・ラリーやサッカー、ラグビーなどのスポーツイベントの際のボランティア募集の案内をもっと積極的にやってほしい。ボランティアの機会があると大学生や高校生が参画しやすい。
- ・外国人のつながりについて、特に保見団地では、外国人に対するイメージのギャップがあり、地域のつながりをどう考えるべきか難しさがある。

(住みたいまち)

- ・豊田市には多様なお店や飲食店がたくさんあり、美術館や香嵐渓など自慢できるものがたくさんある。
- ・住みやすいし不自由さが無いが、車が無いと移動できないまち。車が多くて混んでしまうという面もある。

- ・体を動かせる場所が少なく感じる。交通の便を良くして、体を動かせる場所をつくればそこに人が集まると思う。
- ・交通の便がいい方がいい。豊田市駅周辺には代表的な施設もあり、活気があるが、駅から離れると暗くて何も無い。
- ・他市のスポーツクラブを視察した際、中学校の体育館が地域総合型の体育館として地域に開放されていた。そこに高齢者や子どもの関わりもできていた。そういった場が増えていくといい。

(ライフプラン・働き方)

- ・地域に同年代のつながりがあるといい。就職を機に新しい地域で暮らすのが、仕事以外の人とのつながりができるか不安。
- ・将来は教員になりたい。教員の働き方改革に力を入れて欲しい。
- ・仕事中心ではなく、ライフイベントを大切にしたい。
- ・誇れるまちというのは、まちづくりの中で市民の意見に反応してくれる行政。みんなでまちをつくっていると実感できると幸せにつながる。

4 まとめ

- ・スポーツを生かした多世代のつながりの提案や、将来の価値観として、仕事だけでなく自身のライフイベントや暮らす環境の中に人とのつながりを求めている傾向がある。
- ・また、自分の活動や能力をいかしてまちづくりに関与できることに満足感を感じる学生もおり、地域貢献への関心や自己実現の欲求が高いと感じる。

5 当日の様子

